

本堂

1639年に建立された本堂は、寺院の中の主要なお堂で、仏事などが行われます。この建物の作りは、禅宗の寺でよくみられる僧侶の居住建物の配置：大きな長方形の部屋を襖で6つの小さな部屋に分けたものになっています。

南正面は、銀沙灘と錦鏡池、そして奥に観音殿を見渡せる大きく開いた縁側があります。歴史的な仏である釈迦牟尼像は、この建物の奥にある中心の部屋に安置されています。その部屋の天井はアーチ状になっており、格子状の木製パネルが施されています。

また、本堂には、足利義政と妻の記念碑もあります。四つの部屋は、18世紀の著名な画家、与謝蕪村(1716~1784)と池大雅(1723~1776)の繊細な水墨画が描かれた襖を特徴としています。

与謝蕪村と池大雅は、江戸時代後期(1603~1867年)の日本画の一派である南画を専門とし、中国の知的な作風や、鳥、そして中国の情景などで知られています。